

水稲 ヒレタゴボウの発生に注意！

・前年に発生がみられたほ場では本年も発生する可能性が高いため、中干し前後の除草剤処理による予防を推奨します。

＜防除の基本＞

◇発生初期の中干し前後に除草剤処理しましょう。

・ヒレタゴボウは初中期一発型除草剤の効果が切れる中干し前後から発生し、収穫時期までだらだらと発生します。

・ヒレタゴボウに効果がある中後期除草剤をヒレタゴボウがまだ小さい中干し前後のうちに処理しましょう。

・ヒレタゴボウは中干し前後の時期は**草丈が低く(10cm程度)**、見逃しやすいので、注意しましょう。

・ヒレタゴボウに効果的な薬剤はJ Aみえきたの稲作こよみ及び注文書を参考にしてください。



中干し前後のヒレタゴボウ

※中干し後の除草剤の使用では特に収穫前日数に注意してください。

水稲 斑点米カメムシ類対策

・暖冬の影響により、カメムシ類の越冬数が増加していると予想されます。すでに果樹カメムシ類は多発しており、斑点米カメムシ類も多発すると考えられます。

※予察灯(畑・松阪市)における5月第2半旬の誘殺数は、チャバネアオカメムシでは1,805頭(平年50.5頭)、ツヤアオカメムシでは169頭(平年8.9頭)と多い状況(三重県病害虫防除所HPより)。

◇2回の薬剤防除を徹底しましょう！

○イネカメムシの優占しているほ場

1回目：出穂期(全茎の40～50%が出穂)
→不稔の発生を抑制！ 出穂期直後がベスト！

2回目：1回目散布の2週間後
→斑点米の発生を抑制！

○イネカメムシ以外の斑点米カメムシ類が優占

1回目：穂ぞろい期

→不稔の発生を抑制！

2回目：1回目散布の7～10日後

→斑点米の発生を抑制！

※感受性低下を防ぐために、同一薬剤の連用を避けましょう。

◇畦草雑草の管理

畦草雑草は斑点米カメムシ類の発生源となる恐れがあります。出穂10日前までに除草を終えましょう！



イネカメムシ



クモヘリカメムシ

ご相談・お問合せ

桑名地域農業改良普及センター水田担当(電話：0594-24-3642)